

「新未来『創造』とくしま行動計画」及び 「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価結果の概要

1 県政運営評価戦略会議について

政策推進に係る「県民意見の積極的な反映」と「県民目線からのチェック機能の強化」を図るため、県政運営評価戦略会議（以下「戦略会議」という。）を設置している。

この戦略会議において、平成27年7月に策定された県政の運営指針である「新未来『創造』とくしま行動計画」（以下「行動計画」という。）及び挙県一致で地方創生を推進するための「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」（以下「総合戦略」という。）の施策や事業について、評価を行った。

評価結果は、「徳島県総合計画審議会」、「地方創生“挙県一致”協議会」にそれぞれ提言し、先般策定された『『未知への挑戦』とくしま行動計画』の最初の改善見直しのほか、「新たな総合戦略」の策定にもつなげていくこととしている。

あわせて、「とくしま目安箱」等に寄せられた県民からの意見・提言の中から優れたものを選定し、「徳島県総合計画審議会」に提言することにより、県政への積極的な反映を図ることとしている。

2 評価方法について

（1）評価の対象

行動計画に位置付けられた主要施策（144施策）及び総合戦略に位置付けられた主要事業（134事業）を対象とした。

（2）評価の視点

今年度は、行動計画が平成27年度から平成30年度までの4年間で計画期間が満了したことから、その最終評価（総括評価）を実施するとともに、総合戦略は、今年度が計画最終年度であることから、「新たな総合戦略」の策定を見据えて「成果」と「数値目標の達成見込み」を重視した「プレ総括評価」として実施した。

（3）会議の開催状況

行動計画について3回、総合戦略について1回開催した。

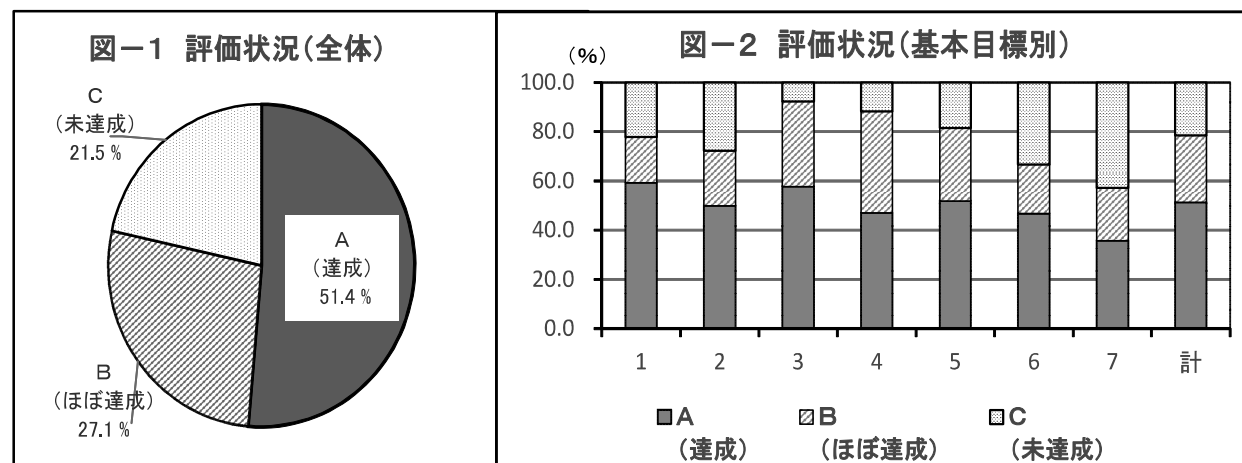
3 行動計画の評価結果について

(1) 総括

「A（達成）」と評価されたものが74施策（51.4%）、「B（ほぼ達成）」と評価されたものが39施策（27.1%）、「C（未達成）」と評価されたものが31施策（21.5%）となった。

表－1 主要施策の評価結果

基本目標	評価区分						主要 施策数
	A 達成	(%)	B ほぼ達成	(%)	C 未達成	(%)	
1 「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現	16	59.3	5	18.5	6	22.2	27
2 「経済・好循環とくしま」の実現	9	50.0	4	22.2	5	27.8	18
3 「安全安心・強靱とくしま」の実現	15	57.7	9	34.6	2	7.7	26
4 「環境首都・新次元とくしま」の実現	8	47.0	7	41.2	2	11.8	17
5 「みんなが元気・輝きとくしま」の実現	14	51.9	8	29.6	5	18.5	27
6 「まなび・成長とくしま」の実現	7	46.7	3	20.0	5	33.3	15
7 「大胆素敵・躍動とくしま」の実現	5	35.7	3	21.4	6	42.9	14
計	74	51.4	39	27.1	31	21.5	144
参考 H30年度の評価結果	81	56.3	35	24.3	28	19.4	144



(2) 基本目標別 意見提言（抜粋）

基本目標1 「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現

- 移住・交流施策の推進については、非常に多くの取組がなされ、ほとんどの数値目標が達成されている一方で、主要指標である「転入・転出者数」をみると転出増加の歯止めに結びついていないので、これを食い止めることに焦点を当てた施策、取組等の再検証も必要ではないか。
- 学生の学習、生活及び就職の支援をはじめとする様々な分野での「人材育成施策」は、ゆくゆくは徳島への貢献を期待してのものであるので、今後は「人材育成施策」と「県内定着施策」の密接化を一層図ってほしい。

基本目標2 「経済・好循環とくしま」の実現

- 公共部門による民間経済への各種支援は、既存の企業等を守ることもさることながら、これからの新しい人、企業、産業に対する支援が一層重要であると考えられるので、今後はそちらにも積極的に力を入れてほしい。
- 農林水産業分野の人材育成については、その成果が「国の重要文化的景観」に認定された上勝町「檜原の棚田」であるとか、伐期を迎えた「徳島県の木」であるとか、放っておけば失われる「目の前の資源」の保全や活用につながり、地域経済も回っていくようなマネジメントをしてほしい。

基本目標3 「安全安心・強靱とくしま」の実現

- 交通事故による死者数をゼロに近づけるためには、道路構造を改良する際、急停止しやすくなるような路面加工を採用するのではなく、そもそもスピードが出せないような路面構造にするとか、思い切って車両の進入を禁止するといった発想の転換も必要ではないか。
- 県立高校の防災クラブが全校に設置できたということだが、今後は、そのあり方が、お仕着せではなく高校生の自由な発想で自主的に活動できるものであること、そしてそれを保障することが、次代を担う高校生の防災力を更に高めるために必要ではないか。

基本目標4 「環境首都・新次元とくしま」の実現

- 自然エネルギーの導入拡大については、そもそも都道府県単位で線引きすることが適切でない部分もあるので、他府県との連携も含めた広域的な普及策にも取り組んでほしい。
- エネルギーの地産地消については、その進捗度合いを測る指標として「市町村数」や「地区数」が挙げられているが、今後は、全体のエネルギー消費量に占める地産地消エネルギーの割合や自然エネルギーの割合等といった、より端的な指標を導入してほしい。

基本目標5 「みんなが元気・輝きとくしま」の実現

- アクティブシニアの多様な働き方の支援については、「徳島県版『介護助手』制度」、「徳島県版『保育助手』制度」に引き続き、更なる活躍の場、輝ける場の開拓を進めてもらいたい。
- 高齢者の生涯学習については、ケーブルテレビ網を活用した在宅での「徳島県生き生きシニア放送講座」の受講環境が整備され、毎年度70名前後の受講者が自発的に受講し、修了していることは評価できるので、引き続き、内容をバージョンアップさせながら、高齢者の生きがいづくりに寄与してもらいたい。

基本目標6 「まなび・成長とくしま」の実現

- トップアスリートの養成については、競技人口が減少し、有望選手は県外に引き抜かれていく現状では実現が困難なので、これからは、幼いときからずっと徳島でスポーツを続けられる環境づくりとともに、有望選手を特定の学校に集めて育成するのではなく、裾野を広げて学校間での競争を生む、多くの試合を経験し、切磋琢磨しながら勝ち上がっていくシステムづくりが重要ではないか。
- グローバル人材の育成については、外国語自動翻訳機の実用化、普及といった技術進歩が目前の今、従来の語学習得に力点を置いたプログラムはもはや時代遅れになりつつあるので、今後は、そういった先端技術を使いこなす力とともに、むしろ、世界の人々に徳島、日本の文化や歴史を語る力こそが求められるので、そのための教育体制を整備してもらいたい。

基本目標7 「大胆素敵・躍動とくしま」の実現

- 大型クルーズ客船の誘致については、旅行企画会社へのセールスだけではなく、停泊地の決定について大きな権限を持っていると聞く船会社や船長へのセールスも怠らないようにするとともに、魅力ある港の整備に尽力してもらいたい。
- 一層のインバウンド誘客のため、レンタカーよりも鉄道やバス、自転車での移動を好む一部の外国人の方にも利便性を実感してもらえるような公共交通の充実を速やかに図ってもらいたい。

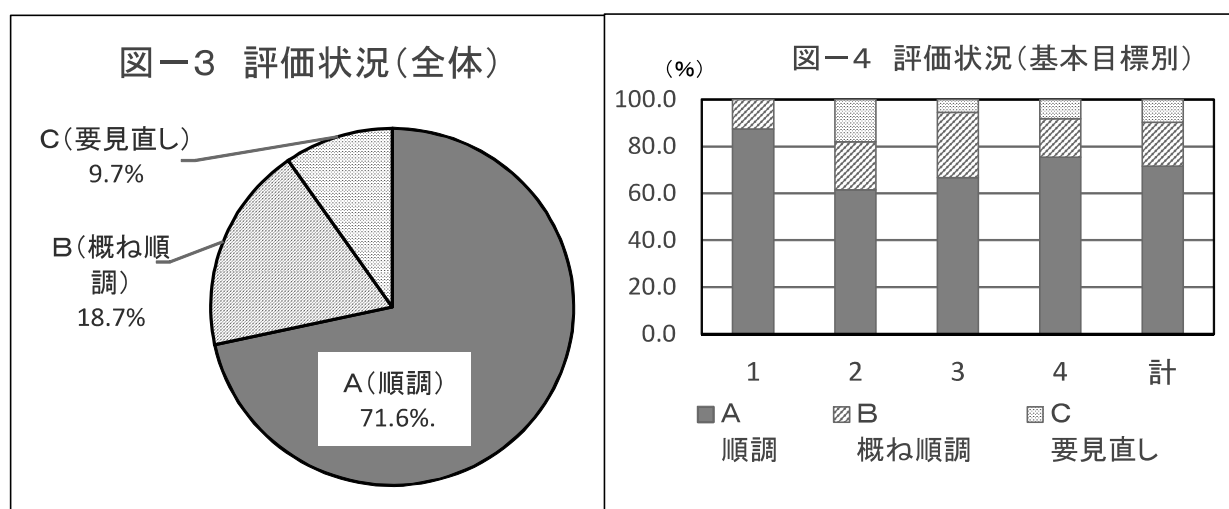
4 総合戦略の評価結果について

(1) 総括

「A（順調）」と評価されたものが96事業（71.6%），「B（概ね順調）」と評価されたものが25事業（18.7%），「C（要見直し）」と評価されたものが13事業（9.7%）となった。

表－2 主要事業の評価結果

基本目標	評価区分						主要事業数
	A 順調 (%)		B 概ね順調 (%)		C 要見直し (%)		
1 新しい人の流れづくり	14	87.5	2	12.5	0	0.0	16
2 地域における仕事づくり	24	61.5	8	20.5	7	18.0	39
3 結婚・出産・子育ての環境づくり	12	66.7	5	27.8	1	5.5	18
4 活力ある暮らしやすい地域づくり	46	75.4	10	16.4	5	8.2	61
計	96	71.6	25	18.7	13	9.7	134
参考 H30年度の評価結果	99	75.6	23	17.5	9	6.9	131



(2) 基本目標別 意見提言（抜粋）

基本目標1 新しい人の流れづくり

- 若者の地元定着促進については、売手市場の就職環境の中で、非常に早い段階から県外企業の内々定が出るという現実があり、そのキーポイントがインターンシップ（一種の〇次試験）での成果となっているので、県内企業のインターンシップ参加等が時機を逸しないように、県内企業の優秀な人材確保をフォローアップしてもらいたい。

基本目標2 地域における仕事づくり

- 「Turn Table」^{ターン テーブル}については、外国人宿泊客が8,000人超あったということで、今後は、その宿泊客の目を徳島に向けるためにも、先般公表された民間調査機関の観光満足度ランキングも参考にしながら、情報発信の先鋒を担う「Turn Table」での仕掛けづくりと、来県してもらった際の飽きさせない工夫に取り組んでももらいたい。
- 年間延べ宿泊者数については、今後は、観光客数を増やすというよりも「観光消費額」を伸ばすということに重点を置いて、旅行を頻繁に楽しめる生活が豊かな客層がわざわざ泊まりたくなるような魅力的な宿泊施設の誘致に取り組み、本県の観光ブランド力の向上につなげてもらいたい。

基本目標3 結婚・出産・子育ての環境づくり

- 正規雇用の更なる拡大については、就職率や有効求人倍率といった抽象的なデータに基づいて施策の進捗や効果を議論しがちであるが、求職者一人ひとりで事情が異なり、そこにきめ細かなマッチングが求められているので、そういったミクロの現場対応の積み重ねがマクロのデータの基礎にあるということを肝に銘じて、施策を展開してもらいたい。

基本目標4 活力ある暮らしやすい地域づくり

- これからの課題解決先進地域づくりの先駆けとして、高齢化や担い手不足に悩む県内各地の「棚田集落」の活性化のため、8月に施行されたばかりの「棚田地域振興法」の活用も見据え、また、上勝で成功し、需要が見込める「グランピング」を観光振興や若者定着の参考としながら、集中的に取り組んでみてはどうか。
- 今後の多機能型拠点形成の一例として、徳島市川内町の徳島インターチェンジ付近に「道の駅」を整備し、徳島自動車道を活用した高知県や愛媛県へのアクセスポイントとするとともに、徳島が誇る「四大麺」（徳島ラーメン、祖谷そば、たらいうどん及び半田そうめん）をはじめ、徳島の食を発信する新たな拠点としてはどうか。

5 戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」

	提言先	項目	意見・提言の内容
1	目安箱	徳島県の今後のイメージ戦略について	<p>徳島県の今後のイメージ戦略として、体験型スポーツを県を挙げてのコンテンツとして取り上げるべきだと考える。県として、各地で行われているスポーツのマップ作りやツアー企画、大鳴門橋を通過のサイクリングコース構想があると聞くと、各地のサイクリングコースの整備や、山間部にはクライミングできる場所やハイキングコースの整備をしてはどうか。</p> <p>徳島県が先駆けて徳島スポーツパーク構想を発信し、阿波おどりなどのインバウンドツアーに結びつけばと思う。</p>
2	目安箱	食品ロスを減らすウェブサイト作成について	<p>飲食店で余った商品を定価より安く提供するというウェブサイトがあるが、主に首都圏の店舗に限られている。そこで、徳島版の同じようなサイト製作を提案する。</p> <p>年間何トンの食品ロスがあるだとか、国連援助量の倍だとか聞いても、それを実生活の中で意識して過ごし、かつ、行動することは容易ではない。しかし、こういったサイトがあれば、飲食店の商品を低価格で購入できるため、県民自らすすんで行動し、結果的に食品ロスを減らし、社会貢献につながる。</p> <p>また、それにより、県民全体の食品ロスに対する意識の向上も推進できると思う。</p>
3	目安箱	麺フェスの開催について	<p>徳島には、徳島ラーメン・半田そうめん・鳴ちゆるうどん・祖谷そばなど、さまざまな種類のご当地麺が存在する。しかし、これらの有名店を巡ろうとすると時間とコストがかかるため、各麺の有名店を集めた麺フェスタというのを開催してほしい。</p> <p>現在、B級グルメなどのご当地のグルメが流行っているので、この機会に、徳島の認知度を広める活動を行うと良いのではと考える。</p>
4	目安箱	徳島オリジナル補給食の開発について	<p>今や四国最大規模のイベントに成長したとくしまマラソンや、ビルドアップ事業により更なる強化が期待される自転車王国とくしま等、徳島県の種々の取組によって、スポーツレクリエーションの気運が高まりつつあると感じている。</p> <p>そこで提案として、地元の特産品などを使用した徳島オリジナルの補給食を開発し、イベント等で販売してはどうか。試合での使用はもとより、土産品としても人気が出るのでは。阿波ふうど協賛企業やベンダー、大手製薬会社などと共同開発すれば、栄養素や味にこだわった地場感のあるすばらしいものができあがるのではないかと。</p>

	提言先	項目	意見・提言の内容
5	わくわくトーク	将来の進路としての農業について	<p>女性や若者が将来の進路を考えるときに、選択肢の一つとして農業が候補に挙がるような状況、農家出身でもなければ畑も施設もない人でも就農しやすい環境づくりが必要ではないか。</p> <p>学校の就職支援課での紹介や求人情報サイトへの掲載によって若者にも情報が届くようにすれば、また、農業にトライしてみたいという人への待遇保障や社会保険も整備していければよいと思う。</p>
6	目安箱	ブロック塀問題について	<p>大阪の地震でブロック塀が問題となっている。行政は県民への模範となる塀のあり方を考えていくべきである。徳島独自の藍色のフェンスや県産材を活用した木製の塀、コンクリートブロックの場合も地域の子どもや住民に絵を描いてもらったり、控え壁を設けない高さにして外側土地に植栽を植える、RC造の壁は意匠を凝らす、町並みが優れた地域には築地塀等、日本古来の壁を採用する。</p> <p>まずは、県、市町村には補助金、県民には公募型抽選での補助を採用するなどして、全国に誇れる徳島独自の塀の政策を設けるべきである。</p>
7	アイデア募集型パブリックコメント	徳島に興味を持ってもらうための体験学校の実施について	<p>「夏の徳島体験学校」として、夏休みの1週間程度、県外の小学生を受け入れてくれる家庭を募り、虫取り、水遊び、畑仕事、藍染め体験、阿波おどり等、徳島ならではの夏を体験してもらってはどうか。</p> <p>これにより、将来、その子どもたちが成長し、進路を選ぶときに、徳島で就職したいという思いを持った人が出てくることも期待できる。</p>
8	わくわくトーク	小規模農地の貸出しマッチング等について	<p>県外からの移住者等、個人が農地を借りることのハードルが高い。地元の人が管理に困る耕作放棄地の活用のためにも、小さな農地の貸出しのマッチング策が必要ではないか。</p> <p>また、若者が、やる気とアイデアさえあれば裸一貫で移住して起業できる小規模多品目農業、六次産業化まで見据えた新しい農業の可能性を切り開くための支援策をお願いしたい。</p>
9	わくわくトーク	にし阿波地区での「雑穀サミット」の開催について	<p>神話の時代から穀物と由縁のある阿波の地で、スーパーフードとして注目されていくであろう雑穀に焦点を当てた「雑穀サミット」を開催してはどうか。生産現場を動画等で紹介。新しく健康志向な料理方法を考案して試食。雑穀を生産する日本各地、世界各国をつなぐ。サミット後も農業体験、農泊ツアーを企画、実施。</p> <p>にし阿波の急傾斜地農法を守り、継続することの大切さ、「雑穀の未来」を語り合うイベントを、官民の協力、アイデアで実現できればよいと思う。</p>
10	目安箱	高齢ドライバーのブレーキ踏み間違い防止について	<p>新聞記事によると、高齢ドライバーによる交通事故が増えていることを受け、東京都がアクセルとブレーキを踏み間違えた際に急発進を防ぐ装置の取り付け費用を補助する方針を表明した。私の親も高齢ドライバーなので、こうした装置をつけてあげたいが、公的な補助がなければ費用が高額なため難しい。ぜひ検討をしてほしい。</p>

	提言先	項目	意見・提言の内容
11	アイデア 募集型 パブリック コメント	これまでのスポーツ強化策の見直しについて	<p>有力選手を特定の高校に集めるとか、ジュニア期から発掘してトップレベルの競技者に育成するという方法は、才能がたまたま開花した子のみを選抜するだけで、人材の「先細り」になる。</p> <p>ジュニアには、正しい体使いと知識の下で多競技を楽しませつつ、巧緻性も高めさせることが、また、成績優秀者だけではなく、挑戦したい者、やる気のある者もチームに混在でき、選考会へも出場できるようにすることが、底辺の拡大、全体のレベルアップにつながる。</p>
12	アイデア 募集型 パブリック コメント	徳島県防災エキスパートの活用について	<p>県職員(土木職)OBで構成する「徳島県防災エキスパート」をもっと活用した施策を検討してもらいたい。現状は、災害時の被害速報のみを業務としているため、ほとんど実績がない。せっかくの経験則や暗黙知が埋もれているのはもったいない。</p> <p>例えば、平常時には河川の巡回・点検への参加、発災時には現場指導など、幅広い活動ができる組織を目指してもらいたい。</p>